

<応用情報技術者試験 講評>

【午前】

テクノロジ系は、技術要素の出題数が増加して、基礎理論、コンピュータシステム、開発技術の出題が減少しました。コンピュータシステムと技術要素は、どちらもテクノロジ系の中核に位置する分類で、内容難易度はソフトウェア開発技術者と「ほぼ同等」です。今後も、この分類を中心とした出題が多いと推測します。

また、リアルタイム OS(問 18、問 19)や産業機器の機械制御装置(問 22)に見られる組み込み型ソフトウェア関連、コンピュータグラフィックス(問 28、問 29)関連の出題は、前回も出題された部分で、今後も出題される可能性があります。

マネジメント系とストラテジ系は、内容難易度が前回と「ほぼ同等」で、用語を理解しておけば解ける問題が多く出題されています。ただし、ラディカルイノベーション(問 71)など、テキストの学習だけでは、十分に対応できないものも出題されました。

今回の試験を分析すると、下記のようになります。

分野	分類	2009/10		2009/04	
		出題数	全体比率	出題数	全体比率
テクノロジ系	基礎理論	8	10%	14	18%
	コンピュータシステム	16	20%	14	18%
	技術要素	18	23%	11	14%
	開発技術	7	9%	10	13%
マネジメント系	プロジェクトマネジメント	5	6%	5	6%
	サービスマネジメント	6	8%	6	8%
ストラテジ系	システム戦略	6	8%	6	8%
	経営戦略	8	10%	8	10%
	企業と法務	6	8%	6	8%

午前全体をとおして、複雑な計算問題は少なく、出題範囲の用語の意味をまんべんなく学習した人は、納得のいく成果を出せたのではないかと思います。

コンピュータシステムと技術要素の出題が増えたことで、ストラテジ関連、マネジメント関連の受験者は、テクノロジ系全般を難しく感じたかもしれません。

時間難易度、内容難易度は、受験対象者にマネジメント層やストラテジ層が多いこと、テクノロジ系の出題比率の変化などを判断すると、前回より「やや難」と分析します。

【午後】

午後の出題は次の内容でした。

- 問1 ソフトウェアの受託開発会社における、工事進行基準適用
- 問2 文字列照合処理
- 問3 原価計算システムの再構築
- 問4 Web システムの構成
- 問5 リモートアクセス
- 問6 旅行業務用データベースの設計
- 問7 デジタルフォトフレーム
- 問8 開発プロセスでのテスト
- 問9 公開鍵基盤を用いた社員認証システム
- 問10 プロジェクトのリスクマネジメント
- 問11 IT サービスにおけるサービスサポート
- 問12 内部統制の整備状況の評価

[問 1 と問 2 で 1 問選択]

経営戦略(問 1)は管理面の内容が出題されました。工事完成基準や工事進行基準を理解していなくても問題文から理解できます。問題をよく読み、計算問題では落ち着いて整理すれば難解な問題ではありません。ただし、字数指定のない記述設問では、その主旨に沿って、要点を的確にまとめ記述する能力が必要です。

プログラミング(問 2)は、比較的難易度の高い文字列操作のアルゴリズムですが、定番のアルゴリズムでもあり、十分学習した受験者は、想定通りの時間配分で解答できたと思います。

[問 3 から問 12 で 5 問選択]

問 4 から問 9 のテクノロジ系は、前回は用語の意味や特徴を問う問題が多かったのに対して、今回の問題は、計算問題を設問に含め、個々の技術により深い理解を求めるものでした。前回の問題だけでなく、ソフトウェア開発技術者の午後 I を含めて学習した受験者は、想定通り時間配分で解答ができたかと推測します。内容難易度はソフトウェア開発技術者と「ほぼ同等」、前回の試験より「やや難」といえます。

問 3 及び問 10 から問 12 のマネジメント系とストラテジ系は、前回は単語の意味や特徴、一般的な手法を問う問題が多かったのに対して、今回の問題は、経営戦略では原価計算の基本的な考え方と勘定科目、プロジェクトマネジメントでは、コストや利益の算出方法など、用語は理解しているものとして、具体的な方法や結果を問う問題が出題されました。前回の試験傾向だけを参考にして学習した受験生は、時間配分に苦労したのではないかと推測します。

午後の全体的な時間難易度、内容難易度は、前半の選択 1 問は前回より「やや易」ですが、後半の出題内容を含めて判断すると、ソフトウェア開発技術者と「ほぼ同等」、前回の試験より「やや難」と分析します。